

実車試験制度の導入の可否に係る検討の視点等について(案)

1 提言の内容

運転免許証の有効期間の短縮制度や定年制という方策については、加齢に伴う身体機能の低下の程度は個人差が大きく、年齢のみによって一律に運転を制限すること自体に問題。運転ができなくなった者に対する移動手段の確保も問題。高齢者講習や医師の診断制度を維持した上で運転免許証の有効期間を短縮することとした場合、高齢者自身の負担に加え、自動車教習所や医師の負担も増加するという問題。これらの問題や改正道路交通法の施行状況も踏まえつつ、自動車教習所における高齢者講習等に係るデータを活用するなどし、それぞれの高齢者が抱える運転リスクに応じたきめ細かな対応が実施できるよう、運転リスクが特に高い者に対する実車試験の導入の可否を含め、運転免許制度の在り方等について調査研究を実施すべき(提言第3-3(3)イ)。

2 検討の視点

- どのような者や場合に実車試験を行うことが適当と考えられるか。
- どのような内容の実車試験を行うことが適当と考えられるか。

3 今年度を実施する調査(案)

- 諸外国の制度の調査
- 高齢運転者の過去の違反・事故状況に応じた交通事故発生状況に係るデータの分析
- 高齢者講習時の高齢運転者の運転行動についての調査
- 高齢者講習指導員に対するアンケート調査